

# ステークホルダーからの信頼

従業員一人ひとりが「社会との共生」を常に意識して行動し、社会を構成する一員としての責任を果たすことで、全てのステークホルダーから一層信頼される企業を目指しています。

## 15-17 お客様からの信頼

品質管理体制と品質向上への取り組み

「高信頼性鋼の山陽」のブランド力強化のための取り組み

## 18 取引先の皆様からの信頼

取引先との協調

## 18 株主・投資家の皆様からの信頼

情報発信の充実

## 19-20 地域社会からの信頼

社会貢献活動

## 21-28 従業員からの信頼

ワーク・ライフ・バランス実現のための取り組み

従業員の能力開発

安全衛生管理のための取り組み

防災の取り組み



## お客様からの信頼

### 品質管理体制と品質向上への取り組み

お客様の満足を高め、当社への信頼をより強固なものとするために、品質管理活動やお客様とのコミュニケーションの強化に取り組んでいます。

### 品質保証の取り組み

当社は、ISO9001品質マネジメントシステムや工業標準化法（JIS：日本工業規格）に基づき、品質保証部が中心となって品質マネジメントシステムの維持・管理、また技術部門、生産部門が一体となって品質管理活動を推進しています。

品質保証にかかわる業務全般を品質保証部という独立した部門が担うことで、品質保証機能の適正化、強化を図り、より信頼性の高い製品の提供に努めています。

さらに、品質保証担当役員を委員長とした品質保証委員会を定期開催しています。この委員会では、年度の品質保証の基本方針および計画についての審議と「重要課題の計画的な改善」、「品質クレームの未然防止」、「品質保証強化」などの改善活動を実施しています。

こうした品質管理活動を通して、第9次中期経営計画の経営基本方針である『「高信頼性鋼の山陽」のブランド力の更なる向上による企業価値の増大と成長を目指して』の達成に向けて、一層の品質向上に注力していきます。

### QC(品質管理)教育

当社は、若手の技術系従業員に対してQCの代表的な手法・技法である統計的品質管理、QCストーリー、QC7つ道具、ピボットテーブル、重回帰分析などの教育を行っています。これらの手法・技法を活用し、各自が年度業務で抱えている課題の解決に取り組んでいます。

また、品質管理の担い手の育成を図るため、一般財団法人日本規格協会などが開催する社外セミナーにも積極的に参加しています。



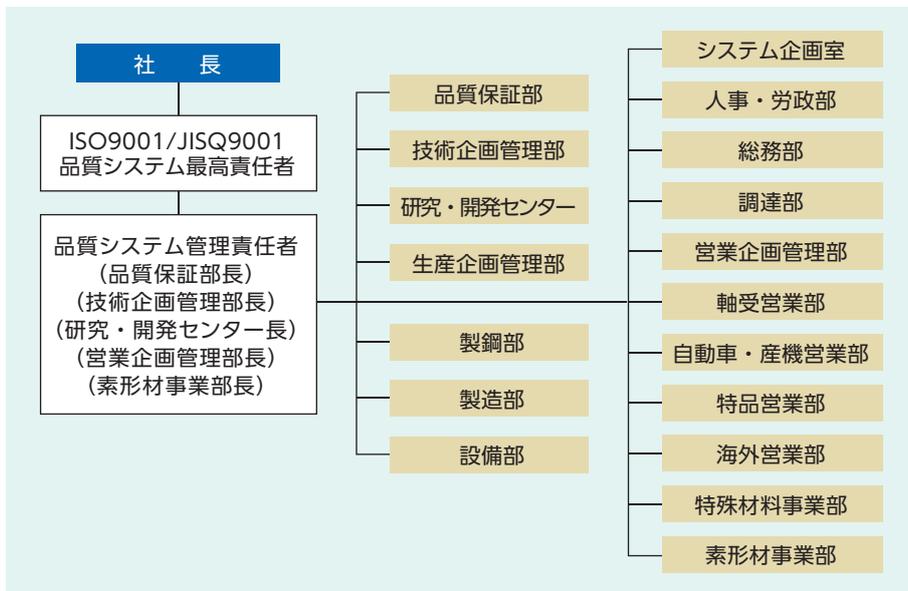
## 基本方針

国際コスト競争力及び研究開発力・品質対応力・納期対応力・システム基盤等の非価格競争力を強化することで、グローバル競争に打ち勝てる企業体質の構築を図る。これにより、拡大が予想される特殊鋼需要を確実に捕捉し、第7次・第8次中期経営計画で整備した設備能力を活かして事業収益を増大する。さらに、あらゆる経済環境下でも最善の収益を確保し得る、上下方とも弾力性のある、強靱な企業体質の構築を目指す。

～「高信頼性鋼の山陽」のブランド力の更なる向上による企業価値の増大と成長を目指して～

- ◇ グローバル競争に打ち勝つための企業体質の更なる強化
- ◇ 技術先進性の拡大
- ◇ 鋼材事業の持続的成長

## 品質マネジメント組織図



### 品質方針の具体的な展開

- ① 顧客満足の向上を目指し、顧客要求事項への適合およびISO 9001品質マネジメントシステムへの適合かつ有効性の継続的改善を行うため、品質マニュアルを確立し文書化し実施させる。
- ② 品質方針とISO組織各部署の品質目標との整合を図るために方針管理展開を行い、組織全体への周知と実施の徹底を行う。
- ③ 品質マネジメントシステムの適切性と有効性を改善するため、少なくとも年1回のマネジメントレビューにより、総括見直しを実施し、次年度の目標に反映させる。

## お客様ニーズの把握と反映

当社は、お客様に対して、QCDD (Quality, Cost, Delivery, Development)に関する当社の評価を年1回調査しています。その結果を分析し、評価の低かった項目を改善することなどで、お客様満足のさらなる向上につなげています。

また、お客様のニーズをタイムリーにとらえるため、お客様との技術交流会や展示会を随時開催しています。当社の開発製品、新技術などを紹介したり、製品にかかわる詳細情報を提供するとともに、お客様の最新ニーズを収集し、製品の開発や改善に活かしています。さらに、工場見学を希望されるお客様には、安全第一を前提にご案内し、見学後はその迫力に大変満足をいただいています。

## Column

### 日本鉄鋼協会「技術貢献賞」を2名が受賞

2014年3月、当社参与の川上潔と石堂嘉一郎がそれぞれ、一般社団法人日本鉄鋼協会の「技術貢献賞(渡辺義介記念賞)」と「技術貢献賞(林賞)」を受賞しました。これらの賞は、鉄鋼に関する学術・技術の振興および研究者の育成を目的として、顕著な業績を挙げた会員に贈られるものです。

川上は、製鋼および特殊鋼棒鋼の製造に従事し、超高清浄度鋼製造技術の開発と安定製造技術の確立や、高品質高生産性連続鍛造技術の確立などに貢献しました。

一方、石堂は、電気炉による軸受鋼をはじめとした量産特殊鋼や高機能ステンレス鋼などの製鋼操業に従事し、非金属介在物の影響を大きく低減させる精錬操業技術の高度化に貢献するなど、品質、生産性の高い製鋼技術の開発、発展に尽力しました。

これらの功績が評価され、今回の受賞となりました。



## 「高信頼性鋼の山陽」のブランド力強化のための取り組み

「高信頼性鋼の山陽」を支える高い技術力を維持・強化していくために、業務の改善、最新情報の紹介など多様な活動を展開しています。

### 品質標語

全国品質月間にあたる11月を品質月間と定め、品質標語の募集など、品質への意識向上のための各種施策を行っています。2013年度の品質標語には、多数の応募から優秀作として「確かな品質届けよう 世界へ 未来へ 次世代へ」が選ばれました。

この標語を、1年間社内に掲示し、品質意識の高揚に役立てています。



2013年度品質標語 表彰式

### 技術講演会の開催

当社では、鉄鋼に関する最新の研究・開発動向などを幅広く全社的に紹介するため、内外の研究者や技術者を講師に招いた技術講演会を開催しています。

2013年度は、「調和組織制御による高強度・高延性金属材料の開発」と題した講演を開催し、多数の聴講者が参加しました。活発な質疑応答が行われ、今後の研究開発の参考となる良い機会となりました。



技術講演会

### TPM活動の推進

当社のTPM(Total Productive Maintenance：全員参加の生産保全)活動は、設備を対象に潜在する「故障、トラブル」に代表されるロス・ムダを徹底的に排除して、生産効率(経営効率)を極限まで高め、製品の安定供給を実現・維持する活動です。当社では、生産部門を主体に、自主保全・計画保全・個別改善・品質改善・安全衛生・教育訓練の6項目に重点を置いて、製造現場の作業単位で、TPM活動を推進しています。

また、サークル単位でのTPM活動は、定期的に開催しているTPM社内大会で成果を発表するとともに、優秀な活動事例は社外大会で発表しています。

### 知的財産の取り組み

企業行動指針の下に定められた行動基準において、会社の知的財産権は重要な会社資産であること、他社の知的財産権についても自社のものと同様に尊重することを定めています。

当社の知的財産管理の例として、近年新製品の開発が相次いでいる高強度はだ焼鋼「ECOMAX」シリーズと、2012年度にプレスリリースした軸受鋼「PremiumJ2」について、既にこれらの特許権を取得していましたが、2013年度に新たに1件ずつ特許権を取得しました。なお、これらを含め、特許庁で特許登録中の件数(保有特許件数)が、創業以来はじめて300件を超えました。

また機密情報の管理については、近年日本企業の間で増えてきた製造技術の流出事例を踏まえ、製造技術等の機密情報の流出を未然に防止するため、技術部門および生産部門の役職者を対象に社内ルールの説明会を開催しました。